

(6) 定期的な活動内容

・上記の種目を、各ニーズに合わせて(サークル・スクール・セミナー)プログラム調整会議にて毎月の予定を決定して活動している。

(7) イベント等の不定的な活動の特徴

・年2回のおおやのスポーツフェスティバルを中心に各種目ごとに大会を開催して消耗品等の捻出する工夫をしている。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)

とにかくスポーツに対して熱い思いで取り組んでおられる方々で構成されており、継続することを一番の目標にして活動されている。

(9) なぜ故に総合クラブをつくらうとしたのか

・平成12年頃、社会では青少年による凶悪犯罪が頻繁に行っていた。そこで体育指導委員の人達により、「地域の子ども達は地域で育てよう」と言うコンセプトとともに、何かないかと模索していた時に、総合型地域スポーツクラブの存在を知り、何度も勉強会を重ねていくうちに確信へと変わり、準備委員会設立後、平成14年10月設立に至る。

(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか

・自分自身が小学校までは色々なスポーツに親しむ事が出来る環境があったが、今は少子化等の問題もあり特にチーム編成して行うスポーツに関しては思うようにやれない現状があった。子どもには無限の可能性があるので少しでも役に立ちたいと思い現在に至る。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き

・会長 窪田 進市、市議会議員・大矢野町陸上協議会長
・副会長 小林 治子、介護保険施設勤務・体育指導委員
・事務局長 宮島 健一、行政職員(社会教育課 篠田 良)

(12) いつ、どこで

・各部会にて毎月定期的は大矢野総合体育館にて行われている。

(13) <u>どんな人たちによって</u>
・指導者部会・健全育成部会・総務部会・健康福祉部会・広報PR部会の人達によって行われている。
(14) <u>どんな内容を決定しているのか</u>
・総務部会 イベントの計画、自主運営にむけての立案、NPO法人の勉強会 ・指導者部会 毎月のプログラム調整、一貫指導システムの構築について ・健康福祉部会 指導者講習会の計画・実施 ・健全育成部会 各プログラムの見回り等 ・広報PR部会 広報活動
(15) <u>意志決定をスムーズにするための工夫</u>
・各部会を毎月開催していただきその月の最後の週で理事会を開くようにしている。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) <u>組織体制の特徴と配置スタッフ数</u>
・総務部会 7名 (市議・婦人会長・商工会・前学校長、等) ・指導者部会 17名 (各プログラム責任者) ・健康福祉部会 5名 (医師・保健師・栄養士) ・健全育成部会 9名 (書くジュニア教室保護者会長・学校代表) ・広報PR部会 2名 (写真屋)
(17) <u>組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと</u>
・各部会ともに目的に応じて一番関係のある人々にその部会にて活動をやっていただいている。
(18) <u>組織体制づくりにあたって工夫したこと(特徴点)</u>
・モチベーションの温度差を出来るだけつからないように会議を行う場所と時間を固定して出席率を上げる工夫をしている。
(19) <u>会費及び財政規模とその支出内容(16年度予算)</u>
ア) 自主財源の獲得状況(会費や寄付金を含む) ・16年度会費収入 2,080,000円 ・事業収入 230,000円 ・協賛金 50,000円 ・寄付金 10,000円

イ) 財政規模とその主な支出内容

- ・別紙参照

ウ) 委託事業(行政等)の有無と今後の期待(指定管理者制度導入を見据えて)

- ・まずはNPO法人の取得を目標にしておりトレーニングルームや教室等の委託が出来るように行政と話し合っています。

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方

共通の理念：スポーツで明るく健康な町づくり
仲間とともに、健康で生きがいに満ちた豊かな生活の実現
将来を担う健康でたくましい子ども達の育成

(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ

- ・スポーツを楽しく出来る環境作り
- ・コミュニティーライフの拡大

(22) 当該クラブの将来展望(夢のようなもの)

- ・現在活動している子ども達が将来プロ選手やオリンピックなどの選手として活躍し、うちのクラブ出身だという事を胸を張って言えるクラブ作りを目指します。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無 有る場合はその概要(住所や所有権など)

有る
住所：熊本県上天草市大矢野町中2289番地
所有権：上天草市

(24) 練習・活動拠点 当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)

- ・運営主体はすべて上天草市にて行われている。

(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）

・クラブにてソフト面でスポーツ振興をやっているが、いい意味で活動する施設不足が一番の課題である。要因として夜の活動が多いことが考えられる。

(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数

・小学校体育館 7 ・中学校体育館 3 ・高校体育館 1
・小学校グラウンド 7 ・中学校グラウンド 3 ・高校グラウンド 3
・総合体育館 1
・総合グラウンド 1

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）

・今年の夏にサッカーにてクラブ、小学校、中学校、高校合同にて中津江村に合宿に行きました。

(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）

・大矢野町では、県より小中高地域連携実践事業を委託しています。その委員構成としては学校の先生や地域の指導者にて構成されている。

(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因

・お互いの方針理念がある為、音の都合ばかりを話し合うのではなく子どもが一番何を望んでいるのかを中心に考えるようにしている。

(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）

・クラブ理念を押し付けないこと。

(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的なメリット

・学校、体協、体指などと協働してイベント等をする場合は、お互いの経費削減が出来る。
・イベント時の人集めが割りと容易に出来る。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例

・指導者の意見を大事にすること（現場の意見）
・クラブの説明会の常時開催

(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）
・あせらない事。
(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容
・指導者講習会（旧大矢野町ライセンス発行） * 資格者の更新研修をポイント性により実施検討中
(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）
・準備段階や創設期における備品購入に役立った。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い
・基本的には、組織体制はあまり変わっていないが準備段階に比べると人数を減らしてスリム化した。
(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由
・受益者負担を会員さんに浸透させる為、クラブにおけるすべてのイベント行事を有料にして開催し続けている。最初は参加者が少なかったが良い商品(イベント)づくりを合言葉に少しずつだが拡大していつている。
(38) 成功したと思われる決定的な要因
・成功が失敗かは今の段階では、まだわからない。しかし、設立して良かったと実感出来る場面は多くなってきているのは事実である。
(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか
・クラブ自体への支援よりも一貫指導の重要性の普及やクラブマネジャー組合などの音頭を取っていただきたい。(クラブマネジャーの育成及び社会的地位の確保)
(40) 現在、悩んでいること、困っていること
・自主運営に向けての財源確保 ・広報、PRの不足

ご協力、ありがとうございました。